

会 報

平成18年9月15日

てんりゅう



カヌーのメッカ気田川を下る

この水 青い流れを カヌーで下りつつ 気持ちのいい瀬では ライフジャケットをつけ 大の字になり 浮かんでも下る 水温の高い真夏ならではの楽しみ 身を浮かべる流れは 透明度抜群の清流。鮎釣りと並ぶ夏の風物詩です。

(浜松市春野町地内)

会報てんりゅう 第86号

(社)天竜建設業協会 浜松市二俣町鹿島491-5 ☎<0539>26-1562
編集・発行 広報委員会 題字 秋山錠介 FAX<0539>25-6468
電子メールアドレス tenryu@aqua.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www.tenkenkyo.net/>

中国 「青島」の旅



青島空港

海の青と木々の緑。そして街並を彩るレンガ色の屋根が青島の色でした。

中国青島（チンタオ）は中国山東省に位置し山東半島南部に位置する産業都市であり軍港でもあります。面積19654平方キロ。市の人口は710万人を数えます。

日清戦争後、三国干渉で中国に恩を売ったドイツは1897年膠州湾一帯を租借し、軍港を建設し山東半島一帯を勢力下におきました。

第一次世界大戦でドイツに宣戦布告した日本は膠州湾のドイツ要塞を陥落させ占領下に置き1922年には中国に一度返還しましたが、1938年の日中戦争が始まると再び日本の占領下におかれました。

第二次世界大戦後、青島は米国西太平洋艦隊の司令部所在地となりましたが、1949年6月2日に中国人民解放軍が入城し中国共産党政権の支配化におかれ、1984年の鄧小平時代に対外開放され、中国特別経済技術開発区に指定され以来、外国からの投資が集中し近代建設が急ピッチで進展し港湾都市として発展しています。

世界的に有名な青島ビールは1903年にドイツ人が開業し、器材・材料を全てドイツから取り寄せ開業しました。一時日本の占領下にあつてはこの製造に日本人も関与していたことをあつたのです。

旅行二日目の市内観光ではこの「青島ビール工場」を見学しました。世界に1台しかない創立のときから使

用された蒸留機械にはその歴史が刻み込まれている印象を受けました。我々とは同時に台湾の大学からの視察団が到着し、工場の案内を受けていたことは中台の現状政治とは違う位置での交流に我々の認識の刷新を促すものでした。



青島ビール工場

秋山会長の部屋には通訳の趙さんがいました。

ホテルの窓からは眼下に広がる砂浜とその先に続く青い海は青島を観光地としての様相を一層強くするものです。

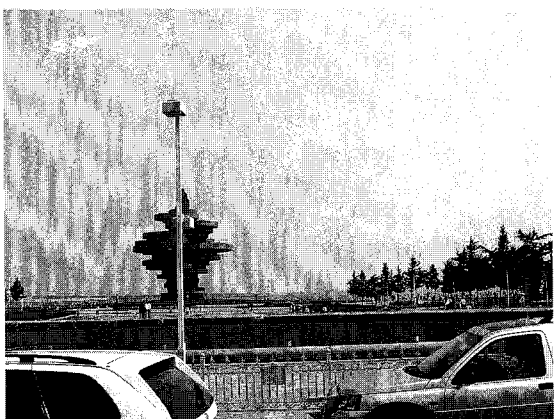
「中国では海は珍しいものです。内陸の人たちの中には成人をして初めて海を見る人もめずらしくありません。

ここには毎日何万人という人がきます。」趙さんの話す先には砂浜に多くの中国人観光客が朝早くから訪れていました。

砂浜から続く丘陵地には新しいマンションがはるか続いています。「あの辺にハイアールの会長が住んでいます。」

「二戸建ての大邸宅ですか？」質問に趙さんは首をふりました。

「普通のマンションです。ハイアールの会長は目の前の青い海、建物に続く背後の緑の小高い丘の風水を大いに気に入って中国最大の電気メーカーの会長になった今も、その場を移ろうとはしません。」



2008北京OPヨット会場



太平路

ここ青島は世界でも有数のブランド力と売上を誇る電気メーカーのハイアールの本拠地でもあります。アジアのビジネスリーダーの一人としてハイアールの最高責任者、張端敏氏は日産のカルロス・ゴーン、サムソンの李健熙と並び称される存在です。

1984年、張氏は「青島冷蔵庫」と呼ばれていた、従業員800人。負債147万円の町工場に赴任してきました。8時の始業時間が始まって出勤するものはわずか。やがて、出勤してもいつのまにか消えてしまふ。工場のドアも窓も壊され煙突の煙で雀が死ぬほどの衛生状態で、工

場長の張氏はまず「工場内で用を足すのを禁止する」という指示を出す状態でした。それから22年、年間70%という驚異的な成長をし続け従業員3万人。世界第2位のマーケットシェアを確立したその過程には日本の人事管理・工程管理のノウハウ・チームワークの精神を取り入れ全社一体の努力があつたのです。

モラルを重んじ、仲間を大切にすることを最優先にするハイアールの手法は中国の伝統的な人間関係や考え方を变えていこうとするところに見ることが出来ます。



山東料理

今回私たちが泊まった、「青島海天大酒店」は日本人の団体客が非常に

多く、ホテル内での言葉にも不自由はしませんでした。

館内のレストランも中国・日本・韓国式とあり、地下にはゴルフの練習場もありました。青島は韓国との交流も盛んで市内には7万人の韓国人々が住み、韓国料理店もあちこちにみられました。



八大関

中国を旅する中で沿岸部の発展と内陸部のそれとはまだまだ大きな差があることを感じます。内陸部では4・5星ホテルでも日本語が全く通用しないところがあります。換金もパスポートの提示を求められることがあります。今回ホテルサービスに接客マナーが格段に進んでいることも感じました。従業員の挨拶と笑

顔での応対は日本よりもしっかりしているような一面もありました。

帰りの朝にロビーに集合した際に旅行社の劉さんから渡されたアンケートには添乗員の言葉遣い・対応・要望等の書類が封をして返却するようがありました。次の機会の為により良いものを提供しようとする姿勢がこうしたところにも表れるところは、大国中国の着実な変貌を予感させられる旅でした。

最後にハイアールの最高責任者張氏のことでこの旅行記を閉じることとします。

「危機感をつねに持たせ、学習を忘れないようにしなければならぬ。日本企業は今でも世界一だが、市場の変化のスピードについていければその強さは過去のものになるだろう。」

龍川建設株式会社
今場 嘉寿



五四広場



炊き出しのツミ

田京組 田京 孝裕

9月は総合防災訓練、台風シーズンです。そこで覚えておく役割立つ、炊き出しのポイント覚えておきましょう。

【ポイント1】ひとつの鍋でできるメニューを選ぶ

何種類も作るとなると、人手と材料がかかります。材料を切つて、鍋に入れ、ぐつぐつ煮るだけでOK。しかも材料からダシが出るので、手間も省ける。そんな汁ものが便利です。巨大な鍋が使えるかどうか分からないので、まずは手に入る鍋で作しましょう。

【ポイント2】はじめは5〜6人分

ら始める。

いきなり50人分は難しい。まずは5〜6人分の分量を覚えて作ります。そうすれば、その10倍を目安に考えれば量もだいたい把握できるようになります。

【ポイント3】必ずフタを閉めること

大鍋での水の蒸発は、少人数用の調理とかなり違います。食するときの温め直しは大鍋で作った場合はかなりの水分が蒸発して、味の加減が変わってしまうこともあります。フタをしておけば蒸発は防げます。フタがない鍋はアルミホイルで覆うなどして蒸発を防ぎます。

レシピ

水・普通のお椀一杯分の水の量は200cc(カップ一杯)

具が入るので一人150ccが目安。

みそ・150ccの水に対し、田舎みそなら約15g(大さじ一杯)白みそなら約40g(大さじ2.5杯)

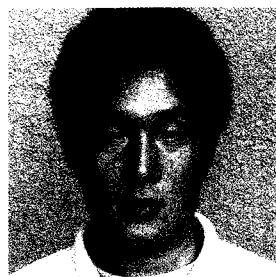
《作り方》

かつお節でダシをとる場合は、水カップ2杯に対して、削り節カップ約1/3、昆布7〜8cmを使います。

具たくさん汁ものや寄せ鍋などの場合はダシ汁8カップとしよう油1カップ、酒1カップ。ただし一度に入れず加減をしながら味つけを。

確立等により大幅に変わろうとしています。

こういった変革の時代を乗り切るためには、「柔軟性・的確な判断力」が必要だと思います。まだまだ勉強不足で一人前とはいかず、住民、業者、諸先輩方に迷惑をかけてしまっているのが現状です。しかし、様々な方の意見に耳を傾け成長していきたいと思えます。今後ともよろしく願います。



かんとくさん

浜松市 天竜総合事務所
森林課 山内 一幸

私は平成15年4月に天竜市役所の土木技術職として採用されました。3年間を土木課にて市道・河川の維持修繕工事を担当し、今年4月の人事異動に伴い森林課への配属となり主として治山・林道の工事を担当しています。

平成17年7月の合併、来年4月の政令市への移行など私たちの住んでいる環境は変革の真只中でありま

最近のキーワード

住宅性能表示とは①構造の安定②火災時の安全③劣化の軽減④維持管理・更新への配慮⑤温熱環境⑥空気環境⑦光・視環境⑧音環境⑨高齢者などへの配慮⑩防犯

の10項目について、消費者が住宅の性能を比較できるように国土交通省が共通の性能表示ルールを設けているもの。

このほど住宅性能表示制度の表示基準が改正され、「空気環境」の評価項目で石綿含有建材の有無を追加する一方、「維持管理・更新への配慮」では、共用排水管の位置や住宅専用部の間取りの変更の容易さなど、住宅を

長期間使用するために必要な各種性能の評価事項を追加した。このほか「構造の安定」では免震建築物の表記を追加した。

「空気環境」については10月1日から、その他の評価事項は07年度から施行する。

住宅性能表示



私の安全パトロール日誌

日頃、現場の安全管理には、格別な配慮をしてもらい、大変有難く思います。

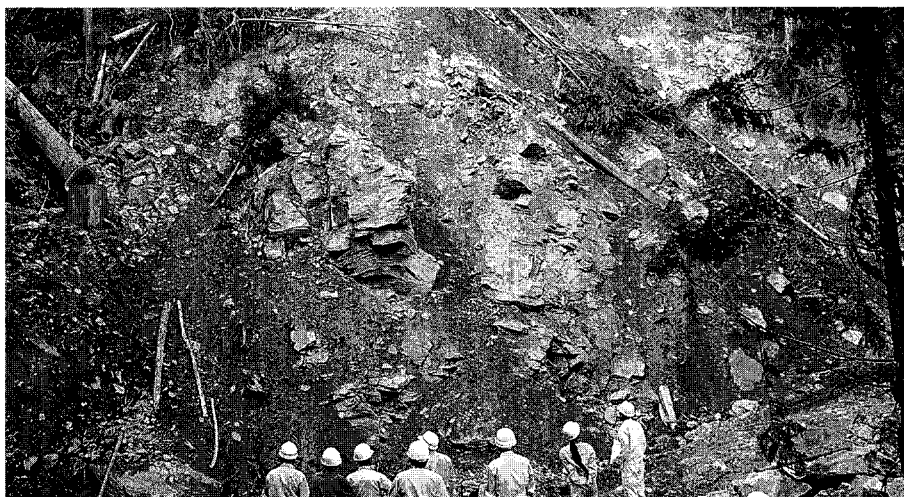
私がパトロールをして感じた事を簡単に書きます。

ひとつは、足場の設置がまだまだ不十分で出来て無い事です。北遠の地域は急峻な現場が多く法面等に足場を掛ける場合が多々あります。ほとんどの業者が外注で任せきりの状態である為、所々に手を抜く現場が見られます。どうか、現場監督は専門業者に対しても、良く見て指導をしてもらいたい。

もう一つは、人通りの少ない現場は安全管理に不備な所が多い。完璧とまでは言いませんが、常識内で安全管理を行ってもらいたい。

今、建設業は大変な時期である為、もし労災事故でもあれば、会社がつぶれる場合があります。事故があつてからでは遅いので、事前に安全管理はしっかりと行ってもらいたいです。

乗松建設(株)
乗松 敬貢

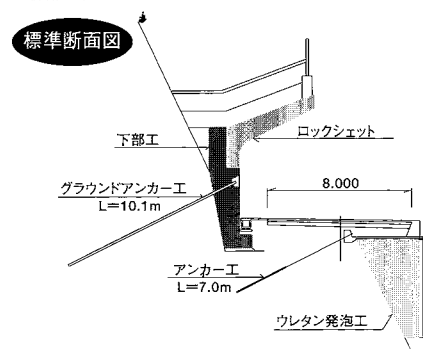
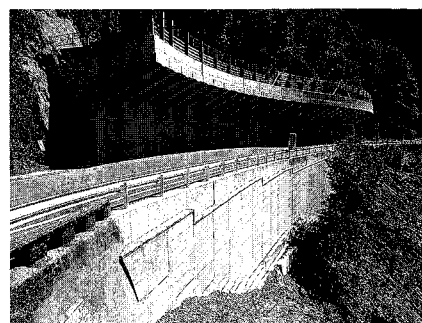


パトロール中

建設ギャラリー

(主) 飯田富山佐久間線緊急地方道災害防除工事

1. 施工箇所 浜松市佐久間町佐久間地内
2. 施工期間 平成12年2月10日から平成17年3月25日
3. 発注者 静岡県天竜土木事務所
4. 施工者 磐田市下神増173-3
株式会社アキヤマ 代表取締役 秋山萬之介
5. 工事概要
コンクリートシェッド 延長L=72.1m
下部工 7ブロック プレキャストシェッド上部工 31セット
グラウンドアンカー工 L=10.1m 31本
道路改良 延長L=84m
軽量盛土擁壁工(ウレタン発泡工) 398m³
アンカー工 L=7m 4本
コンクリート床版工1式 舗装工1式



本工事現場は、現道の谷側を3年度に渡り軽量盛土擁壁工(ウレタン発泡工)にて道路拡幅後、山側を落石防止対策工として2年度に渡りロックシェット工法にて落石防護工事の施工をした。

My Family

(株) 大城組 西田 英郎

私達2人は、4年の歳月を経て昨年9月17日にコンコルド浜松にて結婚式を挙げました。式は人前式にて行い、出席者も社長、知人、友人、家族のみのアットホームな式になりました。式では社長から「1分でも1秒でも早く家に帰します。」という優しい祝辞を頂きました。この1年、あの言葉は守られてはいないと思いますが(笑)。

結婚式を挙げるとなると色々大変で、毎週のように打ち合わせがあり大変でした。そんな時事件が起こりました。自分の父親が体調を崩し入院してしまいました。当日の出席も危ぶまれました。でも父が病院の先生に結婚式には絶対出席させてほしいと、懇願していました。病院からは当日外出許可を頂き、何とか出席できることが出来ました。しかし、「結婚式が終わった次の日には手術ですよ」と言われ少し複雑な気持ちでした。でも手術も無事成功しホッとしています。(善) そんな事もあり新婚旅行には行けな



かったのが今年の8月の盆休みを利用して親戚がある滋賀県に披露宴の写真を2人で見せに行ってきました。自分が奥さんに新婚旅行に來れたねって言ったら、「新婚旅行?」って言われました。その時の奥さんの目が怖かったです。(笑) 今度は新婚旅行に連れて行ってあげたいと思います。

これから色々あると思いますが、今更けで以上に明るく楽しい家庭を作って行きたいと思っています。

Coffee Break



広田組
渡辺 恵さん

広田組に入社して、3年目に入りました。事務員が1人ということもあり、最初はすごく不安で、毎日のように、前の事務の方から電話をして確認していたのを覚えています。今はようやく、仕事、事務所の雰囲気にも慣れ、自分のペースで毎日を過ごせるようになりました。

私生活では、地元のバレーボールチームに入り汗を流したり、友達皆でワイワイしたり充実しています。

仕事、私生活とも地元の方と接する機会が多いので、これからも笑顔を保ち、スポーツ、芸術：の秋を楽しんでいきたいです。

姫様“珍”道中

～二保まつり～



8月から9月にかけて北遠地域での催しといえばお祭り!!

今回は8月19日20日に行われた二保祭りに出かけてきました。

この祭りは「諏訪神社」の祭礼で、見所は何と言っても祭典2日目午後から始まる神輿の渡御とそれに随行する屋台の曳き廻し。屋台は遠州地方の夏まつりとしては最多の14台の祭り屋台が町中を練り歩きます。各町内の屋台のうち最古のものは、明治年間に造られたものもあり、それらを修理して現在に至るものもあります。豪華絢爛な屋台はどれも歴史のあるものばかり。鬼板、懸魚始め屋台を飾る彫物は、その当時の一流の彫物師の手による見事なものです。この屋台の魅力にひかれて毎年県内外から多くの人が見物に訪れます。

そしてもう一つ二保のお祭りといえば「戻せ」の掛け声。一説によれば国道で屋台を曳くときに交通整理のために行われた行為が「面白」!ということから風習として定着したということだ。

14台もの屋台が連なれば渋滞がおきる。で止まっているのは我慢できないというところで「戻せ」で前後に動かす。法被の他におそろいの肉襦袢や手ぬぐいをかけた大人から子供までが「戻せ」の掛け声で、勢いよく屋台を動かす様子は間近で見ると迫力満点!!

今年は多少の夕立もありましたが、両日ともに快晴。炎天下の中で二保の町は祭り一色に染まっていました。

